

TRANSITION TO HEALTH (104)

“ 新型コロナウイルス感染 ③〇 ”

～ “ワクチン接種で『集団免疫』” は 幻想！ その2～

はじめに

複数のノーベル生理学医学賞受賞科学者、スタンフォード大学・カリフォルニア大学・コーネル大学・マサチューセッツ工科大学などの研究者、元ファイザー社の副社長、ファイザー社の内部告発者等々の少数派の意見はメディアに「デマ」扱いされ、彼らのウェブサイト・動画はことごとくチェックされて削除されている。彼ら研究者の発信する正しい情報は無視されて伝えられず、似非情報を流して日本国民を洗脳しているとしか言いようがない状況が続いている（個人的見解）。今号ではワクチンを「接種すればするほど感染し易く、重症化もし易い」を証明した複数の論文を紹介しよう。

イスラエル；接種完了者によるデルタ株院内感染、重症化（2021年7月）

イスラエルは、世界で最もワクチン接種が先行した国であった。当時、「ワクチン接種先進国イスラエルでデルタ変異株による感染爆発が起こっている」と、NHK・エルサレム支局の記者が伝えていた。ワクチン接種率 96.2%のある医療機関で 42 名のデルタ変異株による新規院内感染が起こった。42 名中 38 名（90%）が 2 回接種完了者で、うち 6 名が重症化して死亡した。未接種者 2 名も感染していたが軽い感冒症状で済んでいた。当初、ファイザー・ビオンテックのワクチンの有効率は 95%と謳われていたので、本来ならば、2 回接種の患者が 2 名（5%）で、未接種の患者が 38 名（95%）でなければならないはず。逆に、この論文は「ワクチンは接種すればするほど感染し易く、重症化もし易い」ことを証明してしまったのである。

「高」感染郡は「高」完全接種率（米国 2021 年 9 月）

米国の 68 のカンントリー（countries）と 2947 の郡（counties）におけるワクチン接種レベルと COVID-19 発症増加との関係を調べた論文である。CDCにより「高」感染郡に特定された 4 郡は、完全接種率トップ 5 に含まれる 4 郡であり、内 3 郡は完全接種率が 90%以上であった。逆に、「低」感染郡に特定された 57 郡中 15 郡は、完全接種率は 20%未満であった。この論文でも「接種すればするほど感染し易い」ことが証明さ

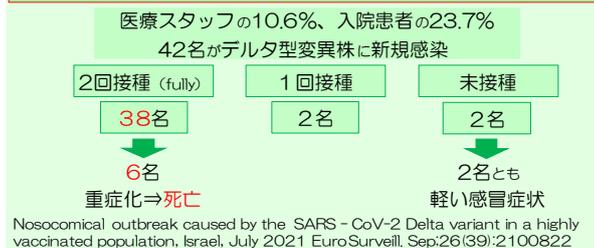
ワクチン接種済み高齢者は重症化しないの嘘？（2021.11） （個人的見解）

ワクチン推進派	ワクチン慎重派の思考
<ul style="list-style-type: none"> ★ 高齢者の感染率減少はワクチン接種の効果である。 ★ ワクチン接種済み高齢者はブレクスルー感染しても重症化しない。 ★ 未接種者は、早く接種すべき！ 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 高齢者の感染率減少はワクチン接種の負の効果！ 感染前の接種後死亡 ★ 自然感染して重症化してしまうかもしれない高齢者は、ワクチンを接種してしまうとスパイク蛋白の毒性に耐えられず、副反応としての心臓・脳血管疾患等により接種後死亡している！？

> Euro Surveill. 2021 Sep;26(39):2100822. doi: 10.2807/1560-7917.ES.2021.26.39.2100822.

Nosocomial outbreak caused by the SARS-CoV-2 Delta variant in a highly vaccinated population, Israel, July 2021

イスラエルのある医療機関（ワクチン接種率96.2%）



ワクチン(Pfizer社)は感染し易く、重症化もし易い

Increases in COVID-19 are unrelated to levels of vaccination across 68 countries and 2947 counties in the United States

S. V. Subramanian^{1,2}, Akhil Kumar³

COVID-19発症増加はワクチン接種レベルとは無関係

Increases in COVID-19 are unrelated to levels of vaccination across 68 countries and 2947 counties in the United States
European Journal of Epidemiology. Published online: 20 December 2021

CDCが特定した「高」感染郡と「低」感染郡

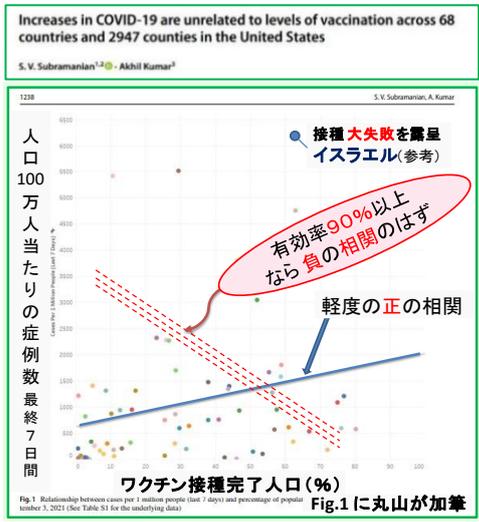
「高」感染郡 4郡	「低」感染郡 57郡
完全接種率トップ 5 (99.9~84.3%) に含まれる4郡が特定された	57郡中、26.3%を占める 15郡の接種率
4郡中下記3郡 ジョージア州 チャタフーチ、 ニューメキシコ州 マッキンリー フレドリック アレシボ の接種率は	完全接種率 20%未満
完全接種率 90%以上	

接種すればするほど
感染し易い！

れた形となっている。

接種完了率と感染者数が、あってはならぬ「正の相関」

右図は前出の論文のグラフであるが、米国の 68 countries と 2947 の counties のワクチン接種完了人口 (%) と最終 7 日間の症例数との相関関係を見たものである。右肩上がりの青い直線 (丸山が強調) は軽度の「正の相関」関係にあることを示している。もし、ワクチンに感染予防効果があるのならば、青い直線は本来、右肩下がりの「負の相関」を示さなければいけない。ワクチンの有効率が 95% もあるのならば、私が書き込んだ赤い 3 本の破線のように強いマイナスの傾き「負の相関」関係を示さなければいけない。ファイザー社のワクチンの額面の有効率 95% は、正しくはわずか 0.71% であったので、横軸 (X 軸) にほぼ平行であっても仕方ないわけであるが、右肩上がり・正の相関だけは頂けない。やはり、ワクチンは『接種すればするほど感染し易くなる』代物であることが証明された形である。



ワクチン接種完了者 (60 歳以上) における感染拡大 (英国 UK)

イギリスでは 2021 年の第 39 週～第 42 週 (10 月 24 日) にかけて、全体で 900,013 人が COVID-19 を発症し、うち 60 歳以上は 100,160 人であった等々、UKHSA の論文 (右) に報告されていた。ワクチン接種状況別発症割合を表にしてみた。全英の接種率が高いので



接種完了者からの発症者も多いのだが、人口構成割合を考慮してみると、『未接種者からの発症が最も少ない』ことが分かった。

さて、60 歳以上のワクチン接種完了者からの発症者数「約 9 万人」は「多いのか少ないのか」を検討してみよう。発症率が未接種者と同等、即ち、ワクチンに効果が無いと仮定した場合「48,052 人」の発症者数となる。次に、ワクチンの有効率を 95% として計算してみると「2,529 人」にまで激減する。右下表に見るように、接種完了者の実際の発症者数「89,821 人」というのは、未接種者の発症率の約 1.9 倍に相当する。当初、ファイザー社は「有効率 95%」と宣伝していたが、実際には謳い文句の 35 倍もの感染者が発生してしまったのである。先に紹介したイスラエルの論文、アメリカの論文、そしてこのイギリスの論文から分かったことは、結局同じ、『ワクチンは、打てば打つほど感染し易く、重症化もし易い!』

60歳以上ワクチン接種完了者 (2回目接種後14日以上経過) における感染拡大 (イギリス 2021年 第39週～第42週)

2021年 第39週～第42週 4週間の英国 (UK) における COVID-19 症例について 全年齢層における総感染者数: 900,013人

内、60歳以上: 100,160人

	症例数	割合	人口構成割合
接種完了者	89,821人	89.7%	約 92%
未接種者	3,395人	3.4%	約 6.5%
1回接種、2回接種後14日未満、unlinked	6,944人	6.9%	約 1.5%
計	100,160人	100%	100%

COVID-19 vaccine surveillance report - week 43 (p.15)
Table 2. COVID-19 cases by vaccination status between week 39 and week 42 2021
Figure 1. Cumulative weekly vaccine uptake by age

60歳以上 ワクチン接種完了者の感染率は未接種者の約 2倍!?

2021年 第39週～第42週 4週間の英国 (UK) における COVID-19 症例

	症例数	人口構成割合
未接種者	3,395人	約 6.5%
接種完了者	48,052人	約 92%
接種完了者	2,529人	約 92%

60歳以上の感染者数: 100,160人

3,395 (人) × (92% / 6.5%) × [(100-95) % / 95 %] = 48,052 (人) × 5 / 95 = 2,529 (人)

ワクチン接種完了者の実際の症例数は 89,821 人であるから

89,821 (人) ÷ 48,052 (人) ≒ 1.87 (倍)

89,821 (人) ÷ 2,529 (人) ≒ 35.5 (倍)

1.9倍の発症率! 35倍もの有効率過大評価!

(これは私たちにとっては常識なのだが...) ということである。

Lancet の論文でも... ドイツ RKI の論文

かつて権威ある医学雑誌といわれていた雑誌には、医薬品情報のソース・ロンドリング部門と化してしまい、掲載論文は製薬会社の経営に有利な研究結果報告となっている場合がある。研究者たちの研究資金は、製薬会社やその関係組織から提供される場合がほとんどであるので当然なのかもしれない。また、NIAID (アメリカ国立アレルギー・感染症研究所) 所長 Anthony S. Fauci 氏が大手製薬会社の株主であること、WHO が大手製薬会社から多額の寄付金を得ていることも問題である。そんな



中、今回紹介しているような中立的な立場の論文もある。右図は権威ある医学雑誌「Lancet」に掲載されたドイツのロベルト・コッホ研究所の論文の図に、私が加筆したものである。有効なワクチンであれば接種完了率が上がっていけば、接種完了者からの発症率は次第に低下していくはずであるが、逆に 3 倍にも増加している。もう、説明は不要ですね。

おわりに ワクチンを 2 回接種したのに (?), 今現在、元気にされている方、3 回目の接種を希望されますか? 「未接種者の中で感染が拡大している、重症化している。」などというマスメディアの似非情報に翻弄されることなく、自分自身で真剣に考え、判断してください。

